

ゲオルギー・イフチューヒン

Georgi YEVTYUKHIN

所属：日本製紙クレインズ

ポジション：FW

生年月日：1970年5月9日

出生地：旧ソ連（現ロシア）

【プロフィール】1990-1991シーズンから1995-1996シーズンまでロシア・スーパーリーグのスパルタク・モスクワを中心にプレー。日本製紙クレインズ入りの前シーズン（1995-1996シーズン）にはドイツリーグでもプレーした。その間、1994年のリレハンメルオリンピックにロシア代表として出場し、8試合2アシスト2ポイントをマークした。日本製紙退団後は、古巣のスパルタク・モスクワやメタルルグ・ノボクズネツクなどでプレーした。現役引退後はロシアの女子チームの監督などを務めた。

【レビュー】上背はそんなになく、ライトハンドでスピードはなかったですが、スキルはありました。派手さはなく性格的には大人しい選手でした。

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ								プレーオフ						
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)		
1996-1997	第31回	日本製紙クレインズ	5位	6	6回総当たり	5位	30	9	21	30	10 / 28	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -	
						計	30	9	21	30	10 / 28		計	-	-	-	-	- / -

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第1版：2026年3月15日・記

ジョエル・ディック／大城ジョエルディック

JoelDYCK／Joel Dyck OHSIRO

所属：日本製紙クレインズ

ポジション：DF

生年月日：1971年7月28日

出生地：カナダ

【プロフィール】日系人プレーヤー。WHLのスウィフトカレント・ブロンコスやECHLなどのプレーを経て、1994-1995シーズンから日本製紙クレインズでプレー。日本国籍を取得した2001-2002シーズンに日本代表入りを果たし、世界選手権に出場。以後、世界選手権や冬季アジア大会などに出場した。世界選手権は3回出場18試合1ゴール3アシスト4ポイントをマーク。第34回日本リーグでアシスト王を獲得したが、DFが得点、アシスト、ポイントいずれかのタイトルを獲得したのは初めてのことであった。現役引退後はカナダのジュニアチームのコーチなどを務めた。マイケル・ディックは兄。

【レビュー】（大城・ジョエル）ディックは特徴のあるグリップを使っていました。普通は小さめなグリップですが、テープ1本分を巻き付けてGKみたいな感じにして、そこに小指をかけて握っていました。小指が折れないのかなと思いました（笑）。北米出身のプレースタイルで、やられたらやり返すプレーヤーでした。

プレーでは、特にシュート力は抜群でした。イーブンの時はもちろん、パワープレーでも出ていました。いろんなところで使えましたから、チームに貢献してくれました。

欠点はヤンチャで、すぐカーッとになってペナルティボックスに入っていました（笑）。またチームの練習の時でも乱闘していました。日本人になめられてはいけないといった思いがあったのでしょうか、特にディックとケビンヒゴは常に異常なくらい（乱闘を）やっていました。在籍している中で、我慢強くなってきましたし、彼の性格は分かってきました。日本リーグの最後の頃は（マシュー・）樺山など、他の日系人・外国人選手が彼をうまくコントロールしていました。日本リーグでは優勝できませんでしたが、全日本選手権やアジアリーグで優勝するための貢献はしてくれました。

【日本リーグアワード】ベスト6：第34回／アシスト王：第34回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ										プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)		
1994-1995	第29回	日本製紙クレインズ	4位	6	前後期各3回総当たり	4位※	27	5	15	20	30 / 68	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -	
1995-1996	第30回	日本製紙クレインズ	5位	6	前後期各4回総当たり	5位※	37	13	15	28	27 / 98	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -	
1996-1997	第31回	日本製紙クレインズ	5位	6	6回戦制	5位	30	4	14	18	25 / 76	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -	
1997-1998	第32回	日本製紙クレインズ	6位	6	8回総当たり	6位	40	15	19	34	16 / 53	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -	
1998-1999	第33回	日本製紙クレインズ	4位	6	8回総当たり	4位	40	11	19	30	17 / 55	セミファイナル敗退	5	4	2	6	5 / 10	
1999-2000	第34回	日本製紙クレインズ	3位	6	6回総当たり	3位	30	10	27	37	15 / 30	セミファイナル敗退	5	2	1	3	2 / 4	
2000-2001	第35回	日本製紙クレインズ	4位	6	8回総当たり	4位	40	5	25	30	25 / 51	セミファイナル敗退	3	0	0	0	1 / 2	
2001-2002	第36回	日本製紙クレインズ	3位	6	8回総当たり	1位	33	9	21	30	17 / 42	セミファイナル敗退	2	0	1	1	/	
2002-2003	第37回	日本製紙クレインズ	4位	5	8回総当たり	4位	30	6	15	21	23 / 54	ブロンズラウンド敗退	2	1	2	3	/	
2003-2004	第38回	日本製紙クレインズ	3位	4	前後期各4回総当たり	3位※	20	6	16	22	20 / 77	プレーオフ未開催	-	-	-	-	- / -	
				計										計				
				327 84 186 270 215 / 604										17 7 6 13 8 / 16				

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

第36、37回日本リーグ・プレーオフの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

マイルズ・オコンナー

Myles O'CONNOR

所属：日本製紙クレインズ

ポジション：DF

生年月日：1967年4月2日

出生地：カナダ

【プロフィール】1985NHLエントリードラフトでニュージャージー・デビルズから3巡目（全体で45位）指名を受ける。1985-1986シーズンからはNCAAのミシガン大学で4年間プレー。その後、AHLのユティカ・デビルズでのプレーを経て、1990-1991シーズンからは、NHLでは4シーズンにわたりニュージャージー、アナハイム・マイティダックスでプレーし、43試合3ゴール4アシスト7ポイントマーク。NHL以外ではユティカ・デビルズやIHLのサンディエゴ・ガルズ、ヒューストン・エアロズ、シンシナティ・サイクロンズでプレーし、日本製紙クレインズ入りした。

【レビュー】1年目で1つ目に起用されて、マイルズ（・オコンナー）と組みました。厳しい選手で、一つのパスもきっちり相手のブレードに出すように言われ、正直、怖くてビビっていました（笑）。上背はあまりなかったですが、試合では一生懸命プレーし、きっちり守りました。また、ボクがやられそうになったら、マイルズが来て助けてくれました。スマートなプレーヤーで、無理なプレーはしませんでした。当時は、すごいなと思っていましたが、キャリアを積んで振り返った時、シンプルに、スマートなプレーの良さを感じさせてくれたことを思い出しました。

逸話として、酔っぱらって靴の中にビールを入れてがぶ飲みしていました（笑）。陽気でした。

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1997-1998	第32回	日本製紙クレインズ	6位	6	8回総当たり	6位	31	4	11	15	34 / 107	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -
						計	31	4	11	15	34 / 107	計	-	-	-	-	- / -

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

マシュー・カバヤマ／樺山 義一

Matthew KABAYAMA／Yoshikazu KABAYAMA

所属：西武鉄道→日本製紙クレインズ

ポジション：FW

生年月日：1965年11月18日

出生地：カナダ

【プロフィール】日系人プレーヤー。1981-1982シーズンから4シーズン、WHLのメディソンハット・タイガースでプレーした後、2シーズンはドイツでプレー。その後、カルガリー大学などでプレーし、西武鉄道入り。1997年12月に日本人への帰化が認められ、日本代表入り。1998年2月長野オリンピックを皮切りに、世界選手権、オリンピック予選、冬季アジア大会などにも出場した。オリンピックでは4試合1ゴール1ポイント、世界選手権は5回出場24試合1ゴール6アシスト7ポイントをマークしている。1994-1995シーズンから西武でプレーし、2023-2004シーズンから3シーズン、日本製紙クレインズでプレーした（アジアリーグを含む）。現役引退後はWHLのレスブリッジ・ハリケーンズでコーチなどを務めた。

【レビュー】人間的にもプレーヤー的にも素晴らしく人格者でした。アイスホッケーIQが高く、クレバーでいろんなことを知っていました。ゴール量産ではなかったですが、攻めも下手ではありません。攻め以上にFWとしての守りは任せられました。特に、フェイスオフは強かったです。大学時代（カルガリー大）から強く、信じられない守りをしたそうです。ディフェンスFWのお手本でした。オン・オフの切り替えも上手く、練習も遊びもやりました。遠征先で試合後に飲みすぎて、帰りの飛行機では二日酔い状態で寝ていることもありましたよ（笑）。（評：西武鉄道時代・青山勇人）西武時代はスマートなプレーをする選手でした。パワープレーなどで出ていると、混戦をつくるのが上手い選手。それとフェイスオフが強かったですね。樺山と対戦していた時は、フェイスオフで負けることを想定して、誰をマークするのかなどを確認してセットアップしていました。

彼が日本製紙に加入してからは、フェイスオフは勝つことを前提にブレイクアウトを組みました。アタッキングゾーンではかなり武器になりました。パワープレーではフェイスオフは勝ちたく、彼が80～90%は取ってくれます。ゾーンから出されることなく、攻められるのでかなりの武器でした。ディフェンスゾーンでも勝ってくれるので、守りは楽になりました。

フェイスオフでは駆け引きやタイミングが上手かったと思います。また取られても、きれいに取られたのを見たことがありません。彼が入ってから他の選手もフェイスオフが上手くなりました。

クレバーでしたし、コーチ兼任もしてもらいました。（評：日本製紙時代・田中俊司、嶋貫薫、伊藤賢吾）

【日本リーグアワード】最優秀選手：第30回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ										プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)		
1994-1995	第29回	西武鉄道	2位	6	前後期各3回総当たり	3位※	26	6	14	20	13 / 26	ファイナル敗退	5	1	1	2	1 / 10	
1995-1996	第30回	西武鉄道	1位	6	前後期各4回総当たり	2位※	40	14	9	23	13 / 37	優勝	3	2	1	3	0 / 0	
1996-1997	第31回	西武鉄道	1位	6	6回総当たり	2位	29	11	16	27	12 / 32	優勝	4	2	2	4	2 / 4	
1997-1998	第32回	西武鉄道	4位	6	8回総当たり	4位	10	6	8	14	2 / 4	セミファイナル敗退	3	0	1	1	4 / 8	
1998-1999	第33回	西武鉄道	3位	6	8回総当たり	2位	37	10	29	39	11 / 51	セミファイナル敗退	3	1	0	1	3 / 6	
1999-2000	第34回	西武鉄道	1位	6	6回総当たり	2位	29	9	15	24	13 / 34	優勝	9	2	4	6	3 / 14	
2000-2001	第35回	西武鉄道	5位	6	8回総当たり	5位	40	17	19	36	18 / 52	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -	
2001-2002	第36回	西武鉄道	2位	6	8回総当たり	2位	40	11	27	38	16 / 32	ファイナル敗退	5	1	7	8	/	
2002-2003	第37回	西武鉄道	2位	5	8回総当たり	1位	32	9	24	33	11 / 38	ファイナル敗退	4	4	2	6	/	
2003-2004	第38回	日本製紙クレインズ	3位	4	前後期各4回総当たり	3位※	21	2	16	18	2 / 4	プレーオフ未開催	-	-	-	-	- / -	
				計										計				
				304 95 177 272 111 / 310										36 13 18 31 13 / 42				

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第36、37回日本リーグ・プレーオフの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

ライオン・クワバラ／桑原ライオン春男

Ryan KUWABARA／Haruo Ryan KUWABARA

所属：コクド→日本製紙クレインズ

ポジション：FW

生年月日：1972年3月23日

出生地：カナダ

【プロフィール】日系人プレーヤー。1990NHLエントリードラフトでモントリオール・カナディアンズから2巡目（全体で39位）指名を受ける。OHLのオタワ67やECHLのウィーリング・サンダーバーズ、AHLのフレデリクトン・カナディアンズなどでプレーし、1994-1995シーズンにコクド入り。1997年12月に帰化申請が認められ、日本国籍を取得。日本代表として長野オリンピックに出場した。以後、日本代表として世界選手権、冬季アジア大会などに出場した。2002-2003シーズンはコクドを退団してイギリスのBISLのベルファスト・ジャイアンツでプレー。2003-2004シーズンには日本製紙クレインズ入りし、日本リーグ、アジアリーグでプレー。日本製紙退団後は韓国High 1（アジアリーグ）やカナダなどでプレーした。日本代表としてオリンピックは1回出場4試合2ゴール2ポイントをマーク。世界選手権は5回出場27試合7ゴール5アシスト12ポイントをマークした。現役引退後はカナダやアメリカのチームのGMや監督、コーチなどを務めた。

【レビュー】シーズン当初はコンディションが良くなって、正直なところ「大丈夫か？」の音が周りから聞こえてきました。しかし、成績にも表れていますが、シーズンが深まるとチームに与える影響は大きく、また数字は残してくれました。

サイズはすごかったですし、スキルもあり、点にも絡みました。サイズとスピードがありましたから、日本人とは別格。迫力や威圧感は十分で、相手DFはやりづらかったと思います。

最初のイメージは上手さは感じず、細かいことは今一つ。うならせるような業師ではなかったです。しかし、日本に来てから細かいスキルを上達させ、持ち味に磨きをかけ、さらに日本のち密さ・細かさを会得してステップアップしていきました。（評：コクド時代・高木邦男）

コクド時代はめっちゃくちゃ嫌な選手でした。いつも狙われて、ぼこぼこやられていました。サイズを生かし、トップスピードのままチェックに来るので、痛かったです（笑）。やられたらやってやるという感じががむしゃらに対応していました。ですので、味方になった時は心強かったです。

スピードもパワーもありましたから、あの体格で来られたら嫌でした。（伊藤）賢吾なんかチェックをバンバンされていました。それが、味方になったことで、良かったと思います（笑）。桑原が加入して、ボディガード的な役割になって、フィジカルなプレーをしても安心して戦えるようになりました。（評：日本製紙時代・田中俊司、嶋貫薫、伊藤賢吾）

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ										プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1994-1995	第29回	コクド	1位	6	前後期各3回総当たり	1位※	26	8	11	19	16 / 40	優勝	5	2	1	3	4 / 8	
1995-1996	第30回	コクド	3位	6	前後期各4回総当たり	1位※	39	22	18	40	18 / 54	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -	
1996-1997	第31回	コクド	3位	6	6回総当たり	3位	7	1	2	3	6 / 12	セミファイナル敗退	2	0	1	1	3 / 6	
1997-1998	第32回	コクド	1位	6	8回総当たり	1位	10	7	6	13	5 / 10	優勝	5	4	4	8	2 / 12	
1998-1999	第33回	コクド	1位	6	8回総当たり	1位	38	25	22	47	17 / 76	優勝	9	7	3	10	10 / 20	
1999-2000	第34回	コクド	2位	6	6回総当たり	1位	30	19	15	34	18 / 36	ファイナル敗退	7	3	2	5	5 / 10	
2000-2001	第35回	コクド	1位	6	8回総当たり	1位	35	16	15	31	21 / 42	優勝	6	2	9	11	4 / 8	
2001-2002	第36回	コクド	1位	6	8回総当たり	4位	40	25	21	46	16 / 32	優勝	7	2	2	4	/	
2003-2004	第38回	日本製紙クレインズ	3位	4	前後期各4回総当たり	3位※	19	8	16	24	16 / 32	プレーオフ未開催	-	-	-	-	- / -	
							計	244	131	126	257	133 / 334	計	41	20	22	42	28 / 64

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

第36回日本リーグ・プレーオフの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

アレン・コンロイ

Allen CONROY

所属：日本製紙クレインズ

ポジション：FW

生年月日：1966年1月17日

出生地：カナダ

【プロフィール】1982-1983シーズンからWHLのメディシンハット・タイガースで4シーズンプレー。1986世界ジュニアU20選手権にカナダジュニア代表（U20）として出場し、7試合4ゴール4アシスト8ポイントをマークし、銀メダルを獲得した。その後はヨーロッパのスイスリーグ（NLB）やイタリアリーグ、ドイツリーグ、北米ではAHL、IHLでプレーした。1991-1992シーズンにはNHLドラフト外でフィラデルフィア・フライヤーズ入り、3シーズンにわたりプレーし114試合9ゴール14アシスト23ポイントをマークした。

【レビュー】身長は170cmなかったぐらいですが、いろんな面で上手かったです。

リーダーシップがすごくて、1試合1試合、勝つ気持ちを前面に出し、チームへの影響は大きく、それまでのチームカラーなども変えてくれました。コンロイのキャプテンシーのおかげで、ジョエル・ディックも言うことを聞くようになりました。彼が怒ると、ディックも直立不動の姿勢をしていました（笑）。

彼はCFで、1年目のボクの尻ぬぐいで大変だったと思います（笑）。DFから攻め上がる時もカバーをしっかりとってくれて、やりやすく、守りも攻めも貢献してくれました。ノールックパス、体が強く、ボディチェックは自分からあまりやらないですが、チェックを受けてもバックをキープして、チャンスをつくってくれました。パスも出せましたが、パスをもらってからのプレーも上手かったです。総合的にレベルの高い良い選手でした。

初めてプレーオフに進出したシーズンは、レギュラーリーグで存在感を示してくれました。しかし、プレーオフではサスペンションとなり試合に出られなくなってしまい、構想が狂いましたね。

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ										プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)		
1997-1998	第32回	日本製紙クレインズ	6位	6	8回総当たり	6位	40	21	41	62	33 / 66	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -	
1998-1999	第33回	日本製紙クレインズ	4位	6	8回総当たり	4位	37	18	36	54	30 / 89	セミファイナル敗退	2	0	2	2	4 / 29	
1999-2000	第34回	日本製紙クレインズ	3位	6	6回総当たり	3位	30	18	24	42	21 / 71	セミファイナル敗退	5	0	3	3	2 / 4	
2000-2001	第35回	日本製紙クレインズ	4位	6	8回総当たり	4位	31	15	30	45	/	セミファイナル敗退	3	0	0	0	4 / 8	
						計	138	72	131	203	84 / 226		計	10	0	5	5	10 / 41

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第35回日本リーグ・レギュラーリーグの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

第1版：2026年3月15日・記

ウラジミール・チューリコフ

Vladimir TYURIKOV

所属：日本製紙クレインズ

ポジション：DF

生年月日：1963年7月9日

出生地：旧ソ連（現ロシア）

【プロフィール】1980-1981シーズンから旧ソ連のトップリーグ・スーパーリーグのスパルタク・モスクワでプレー。その後もスパルタク・モスクワ一筋でプレーを続けた。ソ連ジュニア代表（U20）として3回の世界ジュニアU20選手権（1981、1982、1983）に出場。17試合1ゴール7アシスト8ポイントをマークし、1983年には金メダル、1981年には銅メダルを獲得した。日本製紙クレインズ退団後は、スパルタク・モスクワでプレーした他、アムール・ハバロフスクやキミク・ボスクレセンスクなどでプレーした。現役引退後はスパルタク・モスクワの監督などを務めた。

【レビュー】スパルタク・モスクワのキャプテンやナショナルチームの経験もあり、バリバリでしたので加入した時は驚きました。身長は180cm前後でしたが、スキルも高く、シュート力もありました。ガツガツ当たりに行くタイプではなく、周りを見ることや、縦パスを出すのが上手かったです。大人しい選手でしたが、練習で日本人に抜かれると、プライドが許さないのか、熱くなって必死に追いかけていました（笑）。

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ								プレーオフ					
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1995-1996	第30回	日本製紙クレインズ	5位	6	前後期各4回総当たり	5位※	22	4	16	20	11 /	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -
						計	22	4	16	20	11 / 0	計	-	-	-	-	- / -

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第30回日本リーグ・レギュラーリーグの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

マイケル・ディック

Michael DYCK

所属：日本製紙クレインズ

ポジション：DF

生年月日：1968年8月6日

出生地：カナダ

【プロフィール】 日系人プレーヤー。1985-1986シーズンから1988-1989シーズンまではWHLでプレー。1989-1990シーズンからはレスブリッジ大学でプレーした。プレーヤーとしてよりもチームスタッフを若い時期から務め、1993-1994シーズンからはWHLのチームでスカウトなどを務めていた。日本製紙クレインズを退団し、現役引退後はWHLのバンクーバー・ジャイアンツやAHLのレスブリッジ・ハリケーンズなどの監督やコーチを務めた。またカナダ代表やカナダジュニア代表（U20）など代表チームのコーチの経歴もある。大城ジョエルディックは弟。

【レビュー】 他のチームもマイケルには声をかけていました。クレバーなプレーヤーであることでしたので、プレーは見ていませんでしたが、獲得しました。弟のジョエル（・ディック）とは全然違うタイプで、スピードもあまりなく、スケーティングも良くなかったです（笑）。でも性格は良いですし、コーチの経験もありましたから、教える能力は優れていました。試合のプレーより、コーチングでチームにはプラスでした。また、ジョエルがカッカしている時に声をかけてクールダウンさせていました。

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ								プレーオフ					
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1994-1995	第29回	日本製紙クレインズ	4位	6	前後期各3回総当たり	4位※	15	0	0	0	11 / 22	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -
1995-1996	第30回	日本製紙クレインズ	5位	6	前後期各4回総当たり	5位※	31	3	6	9	20 /	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -
						計	46	3	6	9	31 / 22	計	-	-	-	-	- / -

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第30回日本リーグ・レギュラーリーグの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

ケビン・ヒゴ

Kevin HIGO

所属：日本製紙クレインズ

ポジション：FW

生年月日：1970年7月11日

出生地：カナダ

【プロフィール】 日系人プレーヤー。AJHLやマウント・ロイヤル大学などでプレーし、日本製紙クレインズ入り。日本製紙退団後はAJHLのチームのGMや監督・コーチ、WHLやQMJHLのコーチなどを務めた。

【レビュー】 マイベースの選手。CFもウイングもできるとの前評判で、CFとして起用しました。スキルはありましたが、スピードがもう一つ。ずば抜けたものはない標準的なプレーヤーでした。

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ								プレーオフ					
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1994-1995	第29回	日本製紙クレインズ	4位	6	前後期各3回総当たり	4位※	30	15	13	28	9 / 18	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -
1995-1996	第30回	日本製紙クレインズ	5位	6	前後期各4回総当たり	5位※	38	13	18	31	11 / 43	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -
1996-1997	第31回	日本製紙クレインズ	5位	6	6回総当たり	5位	30	12	9	21	8 / 16	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -
						計	98	40	40	80	28 / 77	計	-	-	-	-	- / -

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

コリー・フォスター

Corey FOSTER

所属：コクド→日本製紙クレインズ

ポジション：DF

生年月日：1969年10月27日

出生地：カナダ

【プロフィール】 OHLでのプレーを経て、1988NHLエントリードラフトでニュージャージー・デビルスから1巡目（全体で12位）指名を受ける。1988-1989シーズンはOHL、NHLでプレーするとともにカナダジュニア代表（U20）として世界ジュニアU20選手権に出場し、7試合1ゴール3アシスト4ポイントをマークした。その後、NHLではニュージャージー、フィラデルフィア・フライヤーズ、ピッツバーグ・ペンギンズ、ニューヨーク・アイランダーズでプレー。45試合5ゴール6アシスト11ポイントをマークした。NHL以外ではAHLやIHLでプレーをし、1997-1998シーズンにコクド入り。4シーズンプレーした後、ドイツリーグやAHLなどでプレーを経て、2003-2004シーズンに日本製紙クレインズ入りした。日本製紙退団後、UHLでプレーした。現役引退後はCCHLのチームの監督などを務めた。

【レビュー】 大人しい選手でしたが、サイズがありフェンスの右から左までにいる感じで、パワーもありました。それでいながら、ハンドリングなど細かいところも上手かったです。また自陣ゴール裏から相手ゴール裏まで行ってしまうスケータリングもできました。本当の助っ人でしたね。

大きい反面、気持ちが弱い面がありました。NHLではメンタルタフネス、百戦錬磨でなければ務まりません。何があってもへこたれない強さがなければ通用しません。少し痛がりでそこまで強くはなかった感じはしますが、日本では別格でした。（評：コクド時代・高木邦男）

前シーズンまでいた（ロブ・）ドブソンから連絡が来て、DFに弱い部分があったので、第38回日本リーグのシーズン途中から加入しました。コクド時代、パワープレーでシュートを打たれたら、入れられていたイメージですね（笑）。存在感はありました。日本製紙入りしてすぐに、フォスターはインフルエンザに罹ったのです。薬を飲んで直して試合に出ましたよ（笑）。（評：日本製紙時代・田中俊司、嶋貴薫、伊藤賢吾）

【日本リーグアワード】 ベスト6：第32、33、34回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ								プレーオフ					
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1997-1998	第32回	コクド	1位	6	8回総当たり	1位	37	18	13	31	40 / 101	優勝	5	3	3	6	2 / 4
1998-1999	第33回	コクド	1位	6	8回総当たり	1位	36	6	21	27	38 / 155	優勝	9	0	2	2	8 / 24
1999-2000	第34回	コクド	2位	6	6回総当たり	1位	28	11	15	26	22 / 52	ファイナル敗退	7	1	6	7	4 / 8
2000-2001	第35回	コクド	1位	6	8回総当たり	1位	16	4	8	12	/	優勝	6	0	2	2	6 / 20
2003-2004	第38回	日本製紙クレインズ	3位	4	前後期各4回総当たり	3位※	12	2	7	9	/	プレーオフ未開催	-	-	-	-	- / -
				計								計					
				129								27					
				41								4					
				64								13					
				105								17					
				100 / 308								20 / 56					

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第35、38回日本リーグ・レギュラーリーグの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

アレクセイ・プチャーリン

Arexei POUTILINE

所属：日本製紙クレインズ

ポジション：DF

生年月日：1970年10月19日

出生地：旧ソ連（現ロシア）

【プロフィール】世界選手権の出場はないものの、1993-1994シーズンにはロシア代表入りを果たす。フィンランドのトップリーグであるSMリーグのTUTOトゥルクでのプレーを経て日本製紙クレインズ入り。日本製紙退団後はロシアのスーパーリーグのスパルタク・モスクワやセバースタル・チャレポブツなどでプレーした。

【レビュー】あんまり印象に残っていないのですが、185cmぐらいあって、シュート力があるDFでした。気が小さいのか、試合の時に、ワンプレー後にベンチに戻ると、コーチの顔をうかがう感じで、自分のプレーがどの様に見られているのか、かなり気にしていました。

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1996-1997	第31回	日本製紙クレインズ	5位	6	6回戦制	5位	29	10	4	14	18 / 44	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -
						計	29	10	4	14	18 / 44	計	-	-	-	-	- / -

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第1版：2026年3月15日・記

アンドレイ・ポプガーエフ

Andrei POPOGAYEV

所属：日本製紙クレインズ

ポジション：FW

生年月日：1965年4月2日

出生地：旧ソ連（現ロシア）

【プロフィール】 ソ連ジュニア代表（U20）として1985世界ジュニアU20選手権に出場し、7試合出場（0ポイント）し、銅メダルを獲得した。日本製紙クレインズ入り前にはスパルタク・モスクワやドイツリーグなどでプレー。日本製紙退団後は古巣のスパルタク・モスクワやディナモ・モスクワ、SKAサクト・ペテルブルクなどでプレーした。

【レビュー】 上背があり、スキルが高く、スピードやシュート力もある良い選手。ロシア人というよりカナディアンみたいなパワー系でした。しかも北米の選手よりはスキルがあり、パスなども上手かったです。西武鉄道にいた（トム・）カーバースが「ポプガーエフはNHLへ行ってもプレーできる」と高く評価していたと聞きました。

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ									プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)	
1995-1996	第30回	日本製紙クレインズ	5位	6	前後期各4回総当たり	5位※	40	25	29	54	34 /	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -
						計	40	25	29	54	34 /	計	-	-	-	-	- / -

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第1版：2026年3月15日・記

ダーシ・ミタニ／三谷ダーシ

Darcy MITANI

所属：日本製紙クレインズ

ポジション：FW

生年月日：1973年10月14日

出生地：カナダ

【プロフィール】日系人プレーヤー。ジュニアチームでのプレーを経て、1992-1993シーズンからNCAAのノースダコタ大学で4シーズンプレー。卒業後、ECHLのシャーロット・チェックーズやウィーリング・ネイラーズでのプレーを経て、日本製紙クレインズ入りした。日本製紙で日本リーグとアジアリーグで2009-2010シーズンまでプレー。その後、2010-2011シーズンからは韓国・High1（アジアリーグ）で2シーズンプレーした。日本国籍を取得し、世界選手権ディビジョン1やオリンピック予選などに出場。世界選手権は1回出場5試合4ゴール2アシスト6ポイントをマークした。

【レビュー】タフな選手で、ケガをしていますが、全くケガを感じさせませんでした。リーダーシップを持った選手でした。

最初、三谷は、（アレン・）コンロイ、竹内（元章）とセットを組んで看板セットとして得点に絡みました。FWだけではなくDFも含め、セットとしてバランスが良かったですね。

このセットに関しては、「他のセットは守り重視、得点は看板セット」のチーム構想で試合に臨んでいました。その後、CFもやり、伊藤雅俊、竹内とも組みました。この時もこのセットで得点を取る構想でしたね。守りの部分では不安がないわけではなかったですが、三谷がウイング的なプレーをしている時は竹内がCF的な守りをやるなど、上手い具合に回っていました。彼のおかげで攻撃力がアップし、GKを含めた守りの負担が減りました。日本リーグでは優勝はできませんでしたが、優勝を狙えるチームになりました。

スティックをうるさいくらいチャカチャカやっていました（笑）。シュート力もありましたし、パスも上手かった。上背はないですが、当たりにも負けないですし、自分からもガンガンチェックに行きました。しかも汚いプレーはなかったです。チームに勇気を与えるし、引っ張っていました。

【日本リーグアワード】ベスト6：第33、34、36回／得点王：第33、36回／ポイント王：第36回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーリーグ										プレーオフ				
				チーム数	対戦方式	順位	試合	G	A	P	反則(回数/分)	試合	G	A	P	反則(回数/分)		
1997-1998	第32回	日本製紙クレインズ	6位	6	8回総当たり	6位	30	15	24	39	7 / 14	プレーオフ不出場	-	-	-	-	- / -	
1998-1999	第33回	日本製紙クレインズ	4位	6	8回総当たり	4位	39	30	24	54	17 / 42	セミファイナル敗退	5	5	3	8	3 / 6	
1999-2000	第34回	日本製紙クレインズ	3位	6	6回総当たり	3位	30	19	23	42	14 / 49	セミファイナル敗退	5	2	2	4	1 / 2	
2000-2001	第35回	日本製紙クレインズ	4位	6	6回総当たり	4位	40	23	34	57	11 / 22	セミファイナル敗退	3	1	0	1	2 / 4	
2001-2002	第36回	日本製紙クレインズ	3位	6	8回総当たり	1位	38	30	36	66	14 / 28	セミファイナル敗退	2	2	3	5	/	
2002-2003	第37回	日本製紙クレインズ	4位	5	8回総当たり	4位	31	11	31	42	4 / 8	ブロンズラウンド敗退	2	1	0	1	/	
2003-2004	第38回	日本製紙クレインズ	3位	4	前後期各4回総当たり	3位※	24	17	14	31	10 / 30	プレーオフ未開催	-	-	-	-	- / -	
							計	232	145	186	331	77 / 193	計	17	11	8	19	6 / 12

※第29、30、38回は前後期制のため、前後期合計による順位

G：得点／A：アシスト／P：ポイント

第36、37回日本リーグ・プレーオフの反則（回数/分）は未掲載（調査中）

ロブ・ドブソン

Rob DOPSON

所属：日本製紙クレインズ

ポジション：GK

生年月日：1967年8月21日

出生地：カナダ

【プロフィール】OHLなどでプレーした後、1987-1988シーズンからはウィルフリッド・ローリエ大学や、IHLのクリーブランド・ランバージャックスやヒューストン・エアロズ、ECHLでプレーした。1993-1994シーズンにはドラフト外でNHLのピッツバーグ・ペンギンズ入りし、2試合でマスクをかぶり、GAA（60分平均失点）3.96をマークした。日本製紙クレインズ入りする前シーズン（1997-1998シーズン）はイギリスのBISLでプレーし、トップGKの活躍をした。日本製紙退団後は、イギリスのEIHLでプレーし、現引退後はCCHL所属チームの監督やコーチなどを務めた。

【レビュー】それまで外国人GKは経験したことがなかったですが、めちゃくちゃ上手かったです。ドブソンが加入してからですかね。チームが強くなっていきました。ほぼほぼ攻められていて、シュート数も多く受けていましたが、しっかり守ってくれて、少ないチャンスを生かして得点して勝つパターンが出来上がりました。GKが上手いと安心感が違います。彼はシュートを入れません。1本目は止めてくれましたので、そのリバウンドを必死に打たせないようにしていました。彼のおかげでDFとしてのプレーに幅を持つことができました。

2人ある外国人枠の内、ひと枠をGKにすることは、「もったいない」と言う考え方はあります。外国人枠を使ってでも安定した守備力を求める決断をしました。ロブが入ってプレーオフへ行ったシーズンでもあったので、多くのシュートを放たれても、1、2点で抑えてくれていました。ロースコアで勝てる計算ができました。セーブ率、防御率（GAA）もすごいです。「入れられた」と思われたシュートを止めてくれました。ゴール前の混戦になると弱い面がありました。トータル的に見ると「ザ・ゴリー」みたいな感じでした。サイズが大きかったですし、プレースタイルはポジションGKでした。

控えになってしまったGKらにもいろんなことを指導していました。不協和音が出た記憶もありません。いかつい顔ですが（笑）、明るかったですね。入れられたら自分の責任として、怒ることなどはなかったです。

【日本リーグアワード】ベスト6：第35、36回

シーズン	回数	所属	最終順位	レギュラーシーズン											プレーオフ							
				チーム数	対戦方式	順位	試合	滞氷時間	失点	完封	GAA	A	反則(回数/分)	試合	滞氷時間	失点	完封	GAA	A	反則(回数/分)		
1998-1999	第33回	日本製紙クレインズ	4位	6		4位	39	2300:07	134	0	3.50	3	5 / 28	セミファイナル敗退	5	298:04	16	0	3.22	0	0 / 0	
1999-2000	第34回	日本製紙クレインズ	3位	6	6回総当たり	3位	25	1459:00	66	1	2.71	1	3 /	セミファイナル敗退	2	119:25	4	0	2.01	0	2 / 12	
2000-2001	第35回	日本製紙クレインズ	4位	6	8回総当たり	4位	39	2355:57	108	2	2.75	1	4 /	セミファイナル敗退	3	184:29	11	0	3.58	0	1 / 2	
2001-2002	第36回	日本製紙クレインズ	3位	6	8回総当たり	1位	39	2325:58	96	2	2.48	0	4 /	セミファイナル敗退	2	165:32	10	0	3.62	0	/	
2002-2003	第37回	日本製紙クレインズ	4位	5	8回総当たり	3位	30	1811:38	85	2	2.82	0	/	ブロンズラウンド敗退	2	118:58	5	0	2.52	0	/	
						計	172	10252:40	489	7	2.86	5	16 / 28		計	14	886:28	46	0	3.11	0	3 / 14

G：得点/A：アシスト/P：ポイント

第34～38回日本リーグ・レギュラーリーグの反則（回数/分）と第36、37回日本リーグ・プレーオフの記録は未掲載（調査中）